



No.110

2019年 3月 19日

公益社団法人日本山岳会富山支部

時代の節目に思うこと

支部長 鍛冶哲郎

乾いた山道が恋しい季節になりました。西暦も平成も、いちいち昭和に換算しないとピンとこない私ですが、次の時代が始まると思うと感慨深いものがあります。バブルの絶頂期で迎えた平成でしたが、今はすっかり様変わりです。ベルリンの壁がなくなって平和な時代の到来かと思いきや、国際情勢は混迷を深めています。右肩上がり期待できないのは山岳界も例外ではなく、今後、どのような方向に向かうのでしょうか。

100名山ブームはコンビニエンスストアとマイカーによるところが大きいという見方があります。途中のコンビニで弁当を調達し、車でなるべく頂上の近くまで行ってピストンで登る。安易と思いつつ、私もそういう登り方が多くなりました。安全登山の観点からGPSや携帯電話が有用であることに異論はありませんが、過信は禁物です。一定間隔に立てた杭にICチップを埋め込み、スマホでたどることで道迷いを防ぐことを提案する人もいます。でも、そんな計器飛行のような山登りはつまらないような気がします。私にとって登山とは五感で自然と向き合う行為であり、不便さゆえの楽しみや緊張感など、非日常ならではの魅力があります。アルペンルートで室堂まで行き立山の頂上から友達や家族に電話をする我々と、芦峠寺から歩いた昔の人とでは、充足感に雲泥の差があるでしょう。山スキーの時代には大斜面だと思っていた山が、リフトをかけたらほんの一滑りのゲレンデになってしまったということもありました。感動の大きさは苦勞の大きさに比例するといってもいいでしょう。

人工知能や生命科学の進歩でバラ色の将来を予測する人もいますが、どんな時代になろうとも我々は生物の一員として生きていくしかありません。次の時代に向けて、便利さや安全性、快適性をどこまで求めるのか、登山で培われた感性や人間本来の能力が役立つのではないのでしょうか。

目	次
時代の節目に思うこと.....鍛冶哲郎	1 厳冬の浅間山広瀬 弘 9
平成30年度元気やまスポーツ賞受賞.....正橋立子	2 親睦雪山ハイク・笹津山.....本郷潤一 11
第10回山岳講演会	五支部合同スキー山行-銀杏峰-.....鍛冶哲郎 11
「山の危険生物-生態と対処法-」を開催.....河合義則	2 ブータンミュージアム見学と桑原武夫展・
「五支部交流懇親山行」-比良山系・蛇谷ヶ峰-	チョゴリザ初登頂映画会山田信明 12
.....渋谷 茂	3 播隆研究会たより No.2.....金尾誠一 13
65歳 ネパール事始め.....森田裕子	4 富山県山岳連盟の新役員紹介.....山田信明 14
平成30年度日本山岳会年次晩餐会.....金井英子	5 朝日小屋台風災害復旧寄付金のお願い
祖父岳-地形図にない登山道のGPS調査.....鍛冶哲郎	6渋谷 茂 14
12月例会の報告河合義則	7 「登山計画書」の提出方法について(再掲)..... 15
親睦会総会と新年会・月例山行-瀬戸蔵山-	新入会員紹介 16
.....正橋立子	8 会員動向、山行計画等案内 16
根子岳スキー山行北田幹夫	9 編集後記正橋立子・北田幹夫 16

平成 30 年度 元気とやまスポーツ賞 受賞

期日：平成 31 年 2 月 19 日（火）

会場：富山県民会館 304 号室

平成 30 年度の元気とやまスポーツ大賞の贈呈式



が行われ、日本山岳会富山支部に対して、スポーツ団体部門元気とやまスポーツ賞が富山県総

合政策局長より授与された。元支部長の木戸繁良会員が出席された。

（正橋立子 記）



第 10 回山岳講演会「山の危険生物－生態と対処法－」を開催

平成 31 年 2 月 21 日に第 10 回山岳講演会を富山駅前の CiC3 階とやま市民交流館にて開催した。今年は「山の危険生物－生態と対処法－」という内容で富山県カルデラ砂防博物館学芸員の白石俊明氏のフィールドワークの経験から貴重な体験報告と最新情報を交えた講演をしていただいた。

会場に、クマ、カモシカ、イタチ、テン、ノウサギ、タヌキの毛皮と足形の形状を石ここう取りしたもの、クマ、カモシカの頭骨等の標本を持って来て、参加者が自由に触れられるということもあり興味深々の講演会となった。参加者は富山支部の会員、山岳連盟の会員、一般も含めて 60 名で盛況だった。



野生動物の生息範囲及び行動範囲は以前に比べ広範囲に及んでおり、高山帯での高山植物の食害から、人間の生活圏への侵入事例の多発等、自然環境の変化とともに深刻な問題となりつつある。その生態の調査については膨大な時間と労力がかかり、フィールドワークの重要性を再確認

するよい機会となった。

生態調査技術も少しずつ進歩している実情も知ることができた。例えばカメラをタイムラプスというコマ撮りして動画として確認することや、野生動物がカメラの視野に入った場合に撮影するというハードの面や、他分野の技術をうまく応用できるという興味深い内容があった。また、一例としてサクランボの種子を分



析することでその種の形成された標高が分かるという技術を応用して、その種子を食べたクマが排泄したフンの中の種を同じように分析すると、クマの移動標高差がわかるということを知ることができた。

現状では、このような危険生物を人間が絶滅させてしまった場合のリスクについて情報不足で分かっていない以上、共存の方向で対応することが必要という印象を受けた。

なお、当日会場では平成 30 年度の年次晩餐会の関連行事で日本山岳会の活動内容を本部、各支部で資料展示したパネルを参加者に見て頂いた。(河合義則 記)

「五支部交流懇親山行」 - 比良山系・^{じやたに}蛇谷ヶ峰(901.5m) -

期日:平成 30 年 11 月 10 日(土)~11 日(日)

参加者:鍛冶、山田、渋谷

今回の「五支部交流懇親山行」の担当は京都・滋賀支部である。10 日は午後 3 時にグリーンパーク想い出の森「山荘くつき」に集合。それまで時間があるので若狭街道熊川宿を訪れる。大陸の文化の受け入れ口でもあった若狭は、朝廷に食料を献上する御食国(みけつくに)の一つ。小浜から京都への道は、若狭の海でとれた鯖を京に運んだ「鯖街道」でも知られる。熊川宿資料館宿場館で街道の歴史などたっぷりと説明を聞き、お昼は美味なる鯖寿司を食べる。腹も心も甘露なり。午後は、高島市朽木の「道の駅くつき新本陣」に車を停めて、鯖街道を歩き朽木の曹洞宗の名利、興聖寺を訪れる。老椿のお寺として知られ永平寺の末寺である。平安時代の作とされる本尊釈迦如来坐像にお参りする。

「山荘くつき」で一等三角点研究会会長である京都・滋賀支部大槻雅弘会員から「一等三角点よもやま話」の講演があった。内容はむろんのこと機知にとんだ話しぶりに感銘を受ける。とくに「吐噶喇列島」の無人島横当島と臥蛇島の三角点調査の話は興味深かった。

懇親山行当日は朝から快晴。午前 8 時に山荘を出発。蛇谷ヶ峰は比良山系の最北に位置し、地元朽木ではオグラス山と呼ばれている。グリーンパークから車道を歩いて吊橋を渡る。色づき始めたモミジのアーチを潜って雑木林のなかを行く。

標高 360m の場所に「尾根へ」と赤字で記した看板がある。ここからが登り坂の山道である。横木の階段が多い登山道で、木々の黄葉、紅葉を楽しみながら登って行く。秋は木々が「私」を見せる季節、葉の色づきが樹木によって異なり同定に役立つ。



サルトリイバラやソヨゴ、ツルリンドウ、アズキナシなどの赤い実も秋の風情の一つである。この山はことのほかシロモジの木が多い。黄色の葉は陽光に映えてとても美しい。高齢者のパーティ、引率する支部の皆さんがゆっくりとしたペースで登ってくれる。植林したヒノキの林がある 670m 地点を過ぎると、木々も葉を落とし陽光が降り注ぎ暖かい。階段から解放されて 813m まで登ってきた。山の斜面は一面シダに覆われて緑色である。ほ

どなく頂上に着いた。頂上は広く、眼下には琵琶湖、釣瓶岳、比良山系の主峰・武奈ヶ岳、蓬莱山などの山々が見えている。付近はアセビの木が多く生育している。

お弁当を食べ記念撮影をして下山する。陽が西に傾き始めると、斜光の角度によって木の葉の色づきが変わって見える。シロモジの黄葉が輝きをまして見事な美しさ。

全員無事下山し山荘前で解散式、鍛冶支部長が来年は富山支部の担当なので挨拶をされた。京都・滋賀支部の皆さん、楽しい山行ありがとうございました。

帰路は、9月15日にオープンしたばかりの「福井県年縞博物館」を見学する。三方五湖の一つ水月湖の湖底に7万年前から積み重ねられてきた「年縞」、悠久の歴史のドラマに感動した。

[コースタイム]8:00「山荘くつき」--8:50・360m 地点--10:18・690m 地点--10:45・813m 地点-- 11:00~11:40 頂上--13:40「山荘くつき」 (渋谷 茂 記)

65歳 ネパール事始め

期日：平成30年10月20日～11月4日

20歳、私は羽田発アンカレッジ経由でロンドンを目指しました。

65歳、「この目でエベレストを見てみたい!」ころを弾ませて立山エベレスト友好協会の仲間達とエベレスト街道の終点カラパタールへと45年前と同じ羽田空港から出発しました。

ネパールでは6,000m以下はトレッキングとして扱われ6,000m以上の登山とは入山料にも差があります。私はトレッキングとはいえ、初の海外高所行動なのでうまく高度順応できるか気がかりでした。

残念なことに地元立山町にある国立登山研修所の低酸素室が故障のため、千駄ヶ谷にあるMIURA BASE CAMPにおじゃますることになりました。そこで最終高度5,500mくらいまでの酸素濃度の部屋



ディンボチェへの道から見た
ローツェ南壁(撮影 佐伯高男氏)



エベレストとローツェ



エベレスト街道



エベレストを望む峠にて



アムダムラムB.C.



シェルパのコテージにて

で高地での呼吸法などを学習しました。

エベレスト街道は土砂崩れの痕跡がみられる箇所もありましたが、ほぼきれいに修復され「世界の宝」とも思われる景色が広がっていました。

今年はエベレスト周辺が寒気で覆われ、予定を変更しアムダムラムのベースキャンプに向かいました。途中、別山からみた剣岳の姿に似た山を見つけて皆で盛り上がりました。「タウチェ」という名がついていました。

青い、本当に青い空の下、剣沢小屋に縁があるアンヌル氏（シェルパ族）、剣岳周辺で活躍されている方々や仲間達と素敵な時間を過ごせました。

エベレストに 21 回も登頂されたシェルパ（やさしい眼差しをした）のコテージに滞在クムジュンスクール（故ヒラリー卿が支援されていた）への援助の必要性の認識を深めました。順調に歩を進めていましたが 帰路で私は多様なアレルギーを持っていたのにその対策を怠った為カトマンズで 30 時間ほど入院することになりました。

入院先は英国大使館の近くのシーウィックトラベルメディ슨センターでミスタービーン似のドルガブハニダリ医師とエンジェルのような看護師たちが迎えてくれました。



夕食に店屋物のなべ焼きうどんを

出していただいたり、一日テレビでネパール、インド中心のニュースを見ていたり（ニュースの地図では日本は出ていません）、もう英語圏で高校生がホームステイしているようなフレッシュでポジティブな体験をしました。ちなみにこの病院は保険手続きも迅速で有能で責任感のあるスタッフが揃っているのでネパールでなにかの折にはお薦めできます。

最終日、ドクターが日本に携帯するお薬の説明の為に臨時に連れてこられた通訳は、植村直己賞を受賞された冒険家の安東浩正氏でした。冬季極東シベリア自転車横断は TV で拝見していたので感激でした。MIURA BASE CAMP の三浦雄一郎さんに始まり安東浩正さんと締めた旅でした。感激。

さあ私とネパールのおつきあいが始まりました。

何歳まで、後何回あの青い空、やさしい眼差しを経験できるのでしょうか。頑張りましょう。

宿泊地：パクディン、ナムチェ、クムジュン、ディンボチェ、パンポチェ 3 泊、ペリチェ、ルクラ
(森田裕子 記)

平成 30 年度日本山岳会年次晚餐会

期日：平成 30 年 12 月 1 日（土）

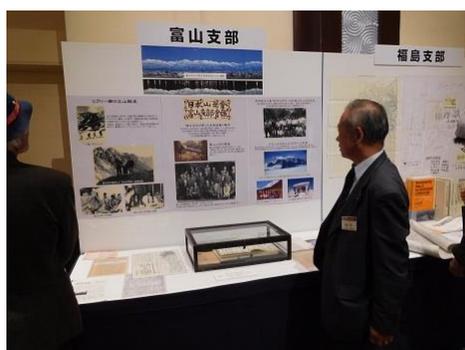
会場：京王プラザホテル

出席者：鍛冶、近藤、山田、飯田、中西、本郷、河合、瀬川、讃井、森田、吉井、金井、渋谷

昨年日本山岳会に入会し、今年初めて年次晚餐会に参加することが出来ました。午後 1 時過ぎに京王プラザホテルに到着しました。5F コンコルドホールルームでの特別展示や富山支部の展示などを見ました。各支部の方たちが丁寧に説明して下さいました。

その後、4Fへ講演会を聴きに行きました。会場は満席で入ることが出来ず、立ち見は警備の都合上出来ないと言われました。「休憩時間の後に空席が出来れば入場のご案内をします」と言われ、森田会員と二人で会場入り口に並んでいました。夢枕獭氏の講演会が終わると、皇太子殿下が会場から退出なさり、私達の前を歩かれました。そして、次の講演会前に再度ご入場される時にも笑顔で会釈してくださいました。間近で殿下のお優しい笑顔に二回も接する事が出来て、幸せ度 200% でした。それから会場に入ることが出来、京都・滋賀支部平井一正氏の「チョゴリザ登頂 60 年記念講演」を殿下と共に聴くことが出来ました。60 年前の、まだ 1 ドル 360 円の時代に船で渡航し、カメラマンは 500 ㊦の望遠レンズで登頂を撮影され、迫力満点の素晴らしい映画でした。

午後 6 時から年次晩餐会でした。私のテーブルは岩木山でした。参加者は 400 人くらいでしょうか。天井の照明が美しい広い会場です。会長さんの挨拶や表彰、新入会員の紹介のあと、晩餐会が始まりました。手の込んだ美しいフランス料理が美しい食器で供されました。ボーイさん達はキリリと引き締まった身なりで、広い会場を見渡しながらかも踊るような動き回っておられました。私はどのような仕事でも、誇りを持って美しく働く事は見る人に感動を与えるものだと思います。宴会の後にひな壇に上がり富山支部全員で記念撮影をしました。夢のように楽しい晩餐会でした。入会させて頂いた事、晩餐会に誘って頂いたことを感謝いたします。 (金井英子 記)



富山支部の活動展示



参加者記念写真



石割山山頂（懇親山行）

追記：翌日の 12 月 2 日に懇親山行の石割山登山が行われ当支部より 8 名が参加した。参加者は本郷、河合、森田、吉井、金井、菅田、米谷、渋谷の各会員。

祖父岳 (832m) —地形図にない登山道の GPS 調査—

期日：2018 年 12 月 6 日（木）

参加者：鍛冶、金尾、渋谷、山田

本山行は、国土地理院が全国的に進めている登山道調査を兼ねて行った。登山道調査は、現行の地形図に記載されていない登山道などを対象に、国土地理院が自治体や山岳関係者と連携して全国的に進めている。調査方法は、国土地理院から貸与された GPS 機器の電源を入れて持ち歩き、下山後に機器ごと収集したデータを地理院に渡せばよいから、特別な知識や技術は必要ない。調査対象となる登山道は、国土地理院と自治体や山岳関係者等による検討会で選定される。富山県の場合は、山岳連盟が『富山の百山』の中から調査が必要な 30 の山を選び出し、国土地理院と調整すると

もに傘下の山岳団体や市町村に呼び掛けて実施している。今回は、11月19日に富山市大沢野総合行政センターで国土地理院北陸地方測量部と富山市農地林務課、富山県山岳連盟、双嶺山の会、日本山岳会富山支部による事前打ち合わせを行い、日本山岳会が祖父岳、双嶺山の会が夫婦山の調査を受け持った。ちなみに、今回調査した二つの山を含めると、30座のうち9座についてはすでに調査が終了しており、順次改訂される地形図に反映されることとなっている。正確な地形図は安全登山に不可欠であり、今後とも調査に協力していきたい。

時節柄、降らなければ良しとして直前に日程を決めたので、富山支部の忘年会の日と重なったが、朝方は新雪の立山連峰がきれいに見える日和となった。夫婦山の松瀬登山口駐車場に集合し、車二台で出かけた。下山予定の谷折に車一台を置いて引き返し、桂原登山口から登り始めた。桂原登山口は、桂原～谷折間の車道の標高600m地点で谷折に向かって右に入る作業道跡のような道を数十m入ったところで、「祖父岳登山口」の小さな看板がある。しばらくスギの植林地をジグザグに登り、スギ林が終われば稜線は近い。稜線に出ると足下に谷折登山口の民家が見える。痩せ尾根をたどって頂上に至るが、残念ながら雲が下がってきて立山や西部の山が見えなくなってきた。長居は無用と急峻で露岩の多い道を下る。ところどころにロープがあるので助かる。谷折に下山するころに雨が降り出したのはグッドタイミングというべきか。

かつては6戸（昭和5年）の家族が住んでいたという谷折だが、今は一軒だけである。その日は留守だったのか人の気配はなかったが、畑や庭は手入れが行き届き、隣にある神社や富山市指定天然記念物の大イチイも荒れた様子はない。静かで心洗われるたたずまいだが、人里離れた高冷の地で暮らす苦勞がしのばれた。（鍛冶哲郎 記）

12月例会の報告

期日：平成30年12月6日(木)

会場：CiC3階、とやま市民交流館研修室

毎年恒例となっている、12月例会行事が開催された。今年は30名の会員から近況報告があり、多方面で忙しい一年だった方が多く、元気なお知らせということで事務局としてうれしく感じることもあった。例会参加者は23名で、例年よりも数名多い程度でも賑やかさを実感した。CiC3階のとやま市民交流館研修室での12月例会は晚餐会、記念登山の報告とH30年度後期の山行報告を行った。今年の晚餐会は当日の12時30分から約4時間程度という短い時間帯に本部及び各支部の資料を展示して、日本山岳会の歩みを辿るという趣旨の展示を行った。会員である皇太子殿下も約1時間にわたって熱心にご覧になったという報告が本部よりあった。富山支部では、エドモンドヒラリー一卿の立山登山の様子や富山支部会報のロゴマークを作成された棟方志功会員の資料等、多くの日本山岳会会員に大変好評だったようで、富山支部の歴史を再確認することとなった。翌日の記念登山(石割山)も初冬の富士山の景観と相まって充実した山行となった。この資料はこの後、パネルとして保存し、「山岳講演会」等の行事に展示していきたい。

山行報告としては、少し異例だったが、森田会員が立山エベレスト協会のメンバーと参加したヒマラヤトレッキングの様子についてスライドを交えて報告してもらった。参加者の中ではヒマラヤ経験者が半数近くおり、追加の解説もあつたりと話がはずんだ。

更に 11 月 10・11 日に行われた五支部合同懇親山行が山田会員より報告された。比良山系の蛇谷ヶ峰は頂上から琵琶湖が一望できる手軽に登れる山とのことで、その様子を報告していただいた。この後、場所を変えて恒例の忘年会となった。(河合義則 記)

親睦会総会と新年会・月例山行－瀬戸蔵山 (1,320m)－

期日：平成 31 年 1 月 22・23 日 (火・水)

場所：立山国際ホテル・極楽坂スキー場

総会・懇親会参加者：木戸、近藤、石浦、山田、飯田、鍛冶、永山、川田、本郷、島津、渋谷、河合、菅田、瀬川、讃井、吉野、正橋

親睦会のメンバーではないが、新年会に初めて参加した。17:30 から総会、その後 懇親会と聞いていたので、のんびり家を出発した。途中、道路はすでに凍結し始めていた。今年は平地では雪がほとんどないので、少し運転に緊張して到着した。集合は、16:00 だったということで、すでに部屋で飲み会が始まっていた。懇親会では、参加者それぞれが、近況報告と今年の山行への抱負を語った。ケガや、健康状態など山行への不安材料もちらほら聞かれた。

山行参加者：木戸、近藤、山田、鍛冶、本郷、永山、島津、渋谷、菅田、瀬川、讃井、吉野、正橋
翌朝、ホテル前で集合写真を撮った後、極楽坂スキー場で 8:20 頃にリフトに乗り、リフトを乗り継いで、ゴンドラスキー場へ向かう。前日のアルコールが残っていたのか、何となく動きが悪くて、リフトに乗られない人、降り損ねる人が出て、一度リフトを止めてしまった。

それぞれスキー、ワカンを着けてゴンドラスキー場を 9 時半ごろ出発、瀬戸蔵山頂を目指す。私は、これが人生初めてのかんじきハイクで、渋谷さん、菅田さん、本郷さんにかんじきのつけ方から、手取り足取りご指導を受けた。(実のところ、足を投げ出して座っていたら、かんじきを履かせて頂いた。) 夏に茂った葉は全て落ちているので、幹の間から谷の向こう側に大日岳が見えるはずだが、あいにく天候は曇りだったため眺望はない。足元を見るのに集中した。しっかりかんじきを履かせて頂いたおかげで、歩きに問題はなかった。頂上に近づくにつれて気温が下がり寒い。頂上で写真を撮ると早速下山した。(正橋立子 記)

[コースタイム] 8:20 極楽坂スキー場リフト乗り場--9:30 ゴンドラスキー場--11:20 瀬戸蔵山頂上--12:30 極楽坂スキー場リフト乗り場 (スキー班) --12:45 同 (ワカン班)



朝 ホテル前にて



瀬戸蔵山頂上にて

根子岳 (2,207m) スキー山行

期日：2019年2月9日（土）

参加者：鍛冶、山田、渋谷、広瀬、森田、北田、元川（上高地山岳研究所）

7名が合流してリフトで1,600m地点まで上がる。山スキーが4名、スノーシューが2名、かんじき+スキーが1名とばらばら。リフトの終点が雪上車によるスノーキャット乗り場になっており、雪面は固く締まる。かんじきを持って参加した私（北田）は、不要とすることでザックにスキーとかんじきを括り付け、つぼ足で登り始めるもののほとんど沈まない。緩やかな斜面をスノーシュー、山スキーが快調に高度を稼ぐ。次第に風が強くなって、ザックに付けたスキーが振られるため、私のスキーはオオシラビソの根元にデポする。

やや急な斜面を右に巻くように登ると山頂直下のオオシラビソの生い茂った風の来ない平坦な場所に到着。ここは晴天時のスノーキャット降場になっているとのことだが、冬型の気圧配置で視



界が悪い今日は途中の避難小屋までとなっている。

そこから約10分で根子岳頂上（写真）に到着。猛烈な風のため早々に戻る。頂上下で腹ごしらえと準備を整え、スノーシューの渋谷、元川会員と私が先に下山開始。視界が悪いのでホワイトアウト現象で回りが真っ白。私はデポ地で山スキーの4名と合流し、広瀬会員を先頭にいざスキーで下降開始。

やっとしか見えないスキーの跡を見失わないように慎重に下山する。視界の悪い中をしばらく慎重に滑るものの、軽い雪質についスピードが出て、私は突

然顔面に衝撃を受ける。ザックを担いでいるため、身体が利かず、後から滑ってきた山田会員にザックとスキーを外してもらい。自分では分からないものの、かなり鼻血が出ている模様。しばらく血が止まるのを待って身体を動かしてみたところ、下半身は無事でなんとかスキーで下れそう。鍛冶会員、森田会員にも手伝ってもらい空身でゆっくりと下降する。ゲレンデ下でスノーシュー組とも合流し、富山からの5人はペンションに向かう。久しぶりのスキーにも関わらず、視界の悪い中でスピードを出しすぎたことが事故の原因、同行の皆様には大変ご迷惑をかけました。

（北田幹夫 記）

[コースタイム] 7:00 黒部 IC—10:00 菅平奥ダボス第1トリプルリフト乗場集合—10:45 リフト降場出発—11:30 避難小屋の上—12:30 スキーデポ—13:15 頂上下—13:30 根子岳—14:00 頂上下出発—15:00 リフト乗場—16:00 ペンションふくなが

厳冬の浅間山 (2,542m)

期日：2019年2月10日（日）

参加者：鍛冶、山田、広瀬、渋谷、森田

「厳冬の浅間山に登ろうぜ」のキャッチフレーズのもとで浅間山に挑戦した。おりしも今季最強の寒気団が押し寄せてくる最悪の天候でもある。北海道ではマイナス 20 度。都心でも積雪があるというなかで私たち富山支部でも昔取った杵柄の最強のシルバー軍団 5 人で挑んだ。

浅間山登山口天狗温泉浅間山荘前に 7 時 30 分に到着。ここは標高 1,400m で既にマイナス 10 度の世界である。昨日とは打って変わって天気も上々であるが風が強い。(この浅間山荘は赤軍派と警察の銃撃戦があったところではない。よく間違える人がいる)。森田会員を先頭にいよいよ厳冬の浅間山に挑む。寒いのでみんなが足早に登る。30 分ほど前に登って行った登山者に二の鳥居で追い越してしまうほどの恐ろしいスピードである。登山道は昨日の積雪なのか薄っすらと雪が積っていて、その下が凍っているにも関わらずアイゼンも履かずに登る恐ろしいシルバー軍団である。

高度を増すごとに風は強まるし気温も下がるが晴れ上がって真っ青な青空になってきた。周りのカラマツの木々に霧氷が付着して白い花が咲いたクリスマスツリーのような。青空だから白色がものすごく映える。キレイキレイの連発である。富山の山にはない景色である。ここで渋谷会員の一句が出たがその句は覚えていない。さらに標高を上げてカモシカ平に着く。硫黄の匂いがしてきた。ここは天狗温泉の源泉でもある。目の前の急登を登ると火山館に着く。ここは浅間山火山の観測所



黒斑山を背に



前掛山を背に

でもあり休憩所でもある。20 分ほど休憩を取りさらなる寒さ対策をして出発。賽の河原を抜けると森林限界に出る。それからは風を遮るところもないし木も生えていない吹きさらしのところになる。そこでやっとアイゼンを履く。凍ったアイスバーンをアイゼンの爪を利かせながら慎重に一步一步進むが、アイゼンが登山靴に合っていない人やこんな氷の山など初体験の人などで、これ以上登ると下山をするのが難しいと判断をして鍛冶会員が下山を命じる。

下山の途中風のないところで雪のテーブルを作り森田会員がお湯を沸かして「おしるこ」などを作って遅い昼食を取る。(今度はお湯をひっくり返さなくてよかったよかった：前日の根子岳でやかんがひっくり返る)。風が無いのと温かい飲み物が飲めて極楽である。休憩中に次の山行の話に花が咲き妙義山に行くことに決めるのと同時に元気が出たところで下山開始。(森田会員に感謝感謝である)。そして全員が無事登山口の浅間山荘前に到着。

この山行で昔取った杵柄のシルバー軍団の登山に対する取り組み方の課題もたくさん見えた楽しい山行でした。(北田会員は前日の転倒の影響で登山口に待機、森田会員は下山中にアイゼンを引っかけてこの日転倒。帰宅後左手の骨折が判明した)。(広瀬 弘 記)

[コースタイム] 6:00 ペンションふくなが発—7:30 登山口集合—8:00 登山口浅間山荘—12:10 下山開始(標高2,325m地点)—15:10 登山口

親睦雪山ハイク・笹津山 (532m)

期日：2019年2月11日(月・祝)

参加者：山田、本郷、渋谷、木戸、永山、近藤、菅田、河合、石原

恒例の富山市山岳協会主催の行事は旧細入村の笹津山で開催された。神通第二ダム駐車場9時半頃出発。アイスバーン状態の国道41号線を車に気をつけながら進み、神社の鳥居横でカンジキ等を装着。途中、大沢野、富山平野を眺めながら12時過ぎに頂上到着。各グループの特色ある昼食を取り、13時頃下山開始。15時頃神通第二ダム駐車場に戻り解散となった。



(本郷潤一 記)

五支部合同スキー山行 -福井県銀杏峰 (1,441m) -

期日：2019年2月23日(土)・24日(日)

参加者：渋谷、菅田、山田、本郷、鍛冶

毎年恒例の本山行であるが、昨年は福井県地方が大雪で中止になり、改めて京都・滋賀支部が担当して昨年同様の計画で行われた。参加者は33名(うち日帰り10名)、富山からは5名が参加し、前日には大野市の俵屋旅館に宿泊して他支部との懇親を深めた。俵屋旅館は城下町の面影を残す大野市中心部にあり、行幸・行啓時の写真や値が付きそうな骨董の品々がさりげなく飾られていて、隆盛の日々がしのばれる。老舗だけあって料理も丁寧に作られていておいしいのだが、歴史を感じさせる純和風の建物は冬向きとはいえず、泊まるなら夏がお勧めである。

山行当日は、朝から晴天である。宿で朝食をとり各自の車で登山口の宝慶寺へ向かう。行く手には銀杏峰が朝日に輝いている。登山口の駐車場はほぼ満車で50台くらいか。登山口一帯に雪はなく、スキーからスノーシューに変更した参加者もいたが、山田会員と私は予定どおりスキーにする。兼用靴とはいえ、プラスチック靴は歩きにくい。林道をしばらく行くと雪が出てくるがすぐに途切れる。小葉谷道に至る林道との分岐で左の林道(2.5万円にはない)を行くと、まもなく登山道

（「名松新道」の標識あり）の入り口がある。ようやく一面の雪になったので登山道の尾根に取りついたが、硬くて急な雪面とブッシュに難儀してスキーを担いで登る者が多く、頂上までスキーを担ぎ上げた人もいた。快適な滑降は望めないと判断した我々二人は前山までシールで登り、そこにスキーをデポして頂上を往復した。

前山からは、越前兜、白山、三ノ峰、荒島岳がずらりと見えている。前山で一息入れて頂上に向かう。森林限界あたりで頂上から下りてくる一団（富山支部の渋谷、菅田他）に会う。少し遅れて、本郷会員が下りてきた。銀杏峰の頂上一帯は平坦で、部子山にかけてのびやかな稜線が続いている。頂上でスキー組の写真を撮り、風を避けて小休憩の後、下り始める。前山までは靴のかかとで雪面を砕きながら下りる。前山からのスキー滑降は、立木にぶつからないよう制動するのが精いっぱい楽しむどころではなかったが、たまには良い経験である。尾根の傾斜が緩くなってきたところで左寄りにルートを取り、沢状の開けた斜面に出てようやく気楽に滑ることができたと思ったら、まもなく林道に出た。万能の雪上歩行用具はないことを再認識した山行でもあったが、結果として今回はアイゼンが最も有効であり、そのようにした人が多かった。

ところで、私は、1996年3月20日（祝日）に当時の福井支部長、故宮本さんと銀杏峰にスキーで登った。その時は、雪は登山口から十分にあり、粉雪の滑降を楽しんだ。また、他に登山者は数人しかいなかったもので、今回の登山者の多さには驚いた。近くには100名山の荒島岳がある。体力的には銀杏峰より厳しいが、日帰り可能である。荒島岳はもっと賑わっているのだろうか。

（鍛冶哲郎 記）

[コースタイム] 登山口 7:50→前山 10:20~10:50→頂上 11:50~12:10（渋谷 11:10~11:25）→前山 12:40~13:10→林道 13:50→登山口着 14:15（渋谷 14:10）

ブータンミュージアム見学と桑原武夫展・チョゴリザ初登頂映画会

期日：平成30年12月16日（日）

参加者：木戸、永山、本郷、河合、山田

11月下旬、福井県山岳連盟の牧野会長から「没後30年桑原武夫展」が福井県ふるさと文学館で開催されていること、12月16日には『花嫁の峰チョゴリザ』の映画上映と初登頂者平井一正氏の講演会があることを手紙で知らせてもらった。後日電話もあり、ブータンミュージアムの展示が充実したので同時にどうぞのお誘いがあったので、支部会員にも呼びかけ福井市まで出かけることになった。

ブータンミュージアムに入ると、6年前にここを開館した野坂弦司さんとスタッフの女性2人が出迎えてくださる。お茶をいただきビデオを見たあと説明をうけながら館内の展示物を見て回った。昨年2月、支部創立70周年記念ブータントレッキングに先立って、鍛冶現支部長と山田でブータンミュージアムを訪問し牧野さんからブー



タン情報をいろいろご教示いただいたが、確かに当時より展示品やパネルも増えている。図書コーナーには日本ブータン学会会長栗田靖之氏から最近寄贈された沢山の文献もある。「幸せの国ブータン」の習俗や文化を紹介する日本で唯一の博物館、ぜひ一度訪問してみてください。

昼食後に郊外にある福井県立図書館に向かった。入館して一番奥に進むと3年前にオープンしたという福井県ふるさと文学館がある。桑原武夫は敦賀出身、京大でフランス文学を専攻。企画展は「福井とのつながり」「多彩な業績」と多くの資料が並び、「山への挑戦」のコーナーには1958年桑原隊長で挑んだ京都大学学士山岳会のチョゴリザ登山隊の登山装備などが展示されていた。当時の衣類、無線機、酸素ボンベなどは京大総合博物館蔵。じっくり鑑賞してから研修室に移動、14時より満席の会場で『花嫁の峰チョゴリザ』の上映が始まる。60年前の映画にしては美しい映像、もう一人の初登頂者藤平正夫氏の35歳当時の勇姿を見ることができた。休憩時間に牧野さんがあいさつに顔を出された（別会場で福井岳連主催の講演会を開催していた）。

講演会で平井一正氏は年次晚餐会の時と同様87歳とは思えない元気な語り口で当時の苦労話をされ、藤平さんのひととなりにもふれられた。残念ながら私たちは帰途についていたが、講演の後平井氏による展示資料の解説があった。牧野さんからは、応接室での平井氏との懇談の席で、「藤平さん（没後15年）とは懐かしい思い出がたくさんある。富山の皆様によろしく」との話があったと、後日連絡をいただいた。（山田信明 記）

播隆研究会たより No.2

昨年発足した会の歩みとこれからの予定をお知らせします。

【石仏巡拝調査】「ネットワーク播隆」世話人の瀬瀬さんに、現地案内をしていただきました。感謝申し上げます。3回目には、鍛冶支部長と大山歴史民俗資料館の増田さんにも参加していただきました。今後も行事の参加呼びかけは広くおこなっていきますが、確認の連絡をしていただければ歓迎します。よろしく願いいたします。

1回目	4/28（土）	「観音堂」、「山の神」	参加 5名
2回目	8/1-2（水・木）	「南西尾根」	同 3名
3回目	10/5（金）	「瀬畑」、「横平」	同 6名

【研究会】第1回 7/12（木）会の名称、目的、活動内容などを意見交換。

【講演・対外交流・発表】（金尾）

10/16日（火）	美濃加茂市「山の話と播隆」	講演
10/30-/31（火・水）	甲信山友会と交流 「念佛行者・播隆上人」	話題提供
11/30（金）	富山市民大学祭・個人学習発表 「郷土の偉人 槍ヶ岳開山・播隆上人」	発表

【今後の予定】

- ・石仏調査については、既知のものを確認終えました。これからが本番であり、いよいよ本格的な調査に入っていくことになります。しっかり準備して安全に現地踏査したいと考えています。

- ・文献調査や応用できる技術動向調査
- ・播隆修行地や名号碑の見学など

(金尾誠一 記)

富山県山岳連盟の新役員紹介

富山県山岳連盟の平成 31 年度定時総会が 2 月 3 日（日）午後 2 時からボルファートとやまで開催され、役員改選の結果下記のとおり新役員が承認されました（下線は新任）。2 年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会 長 山田信明（日本山岳会）

副会長 本郷潤一（日本山岳会・自然保護）、小竹靖高（富山化学山岳部・競技）、
中西紀夫（日本山岳会・海外登山）、黒崎弘明（不二越山岳会・指導、遭難対策）
開澤浩義（城端山岳会・総務）

監 事 大江 豊（上市峰窓会）、高見直哉（県庁山岳スキー部）

理事長 （兼）開澤浩義（城端山岳会）

事務局長 山田 宏（北陸電力山岳部）

副理事長 山崎貴志（ジャンダルム山岳会・指導委員長）、広瀬 弘（大山町山岳会・遭難対策
委員長）、吉井清隆（高岡カラコルムクラブ・海外登山委員長）、松崎 勇（高岡山岳会・
自然保護委員長）、畑中 渉（ゲッコー・競技委員長）、金川千尋（高体連登山部）

なおその他に、次の支部会員が留任・新任されています。

顧問：木戸繁良、松本睦男、永山義春、長崎喜一、平田信康、高瀬 洋

参与：中島 眞、道正政信、野崎裕一

常務理事：石溪秀満、藤井久一

(山田信明 記)

朝日小屋台風災害復旧寄付金のお願い

大蓮華保勝会会員 渋谷 茂（本会副支部長）

昨年 9 月 4 日の台風 21 号により、朝日小屋や冬季避難小屋の建物への損傷や生活用水タンクが吹き飛ばされるなど甚大な被害を受けました。修理には多大な費用がかかり、支部会員の皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。寄付金の受付は一口 1,000 円以上で、募集期間は平成 32（2020）年 12 月 31 日までです。

・寄付金の受付 下記の指定金融機関への振り込みまたはご持参いただいても結構です。

(1)受付箇所 大蓮華保勝会事務局 富山県下新川郡朝日町山崎 1991

(2)指定口座 北陸銀行泊支店 北アルプス朝日小屋災害寄付金 口座番号 6028377

みな穂農業協同組合 大蓮華保勝会 1052584

郵便局口座 大蓮華保勝会 記号 13220 番号 2712221

新川信用金庫 大蓮華保勝会 代表 蓬澤正二 0168180

「追記」領収書の必要な方はお申し付けください。

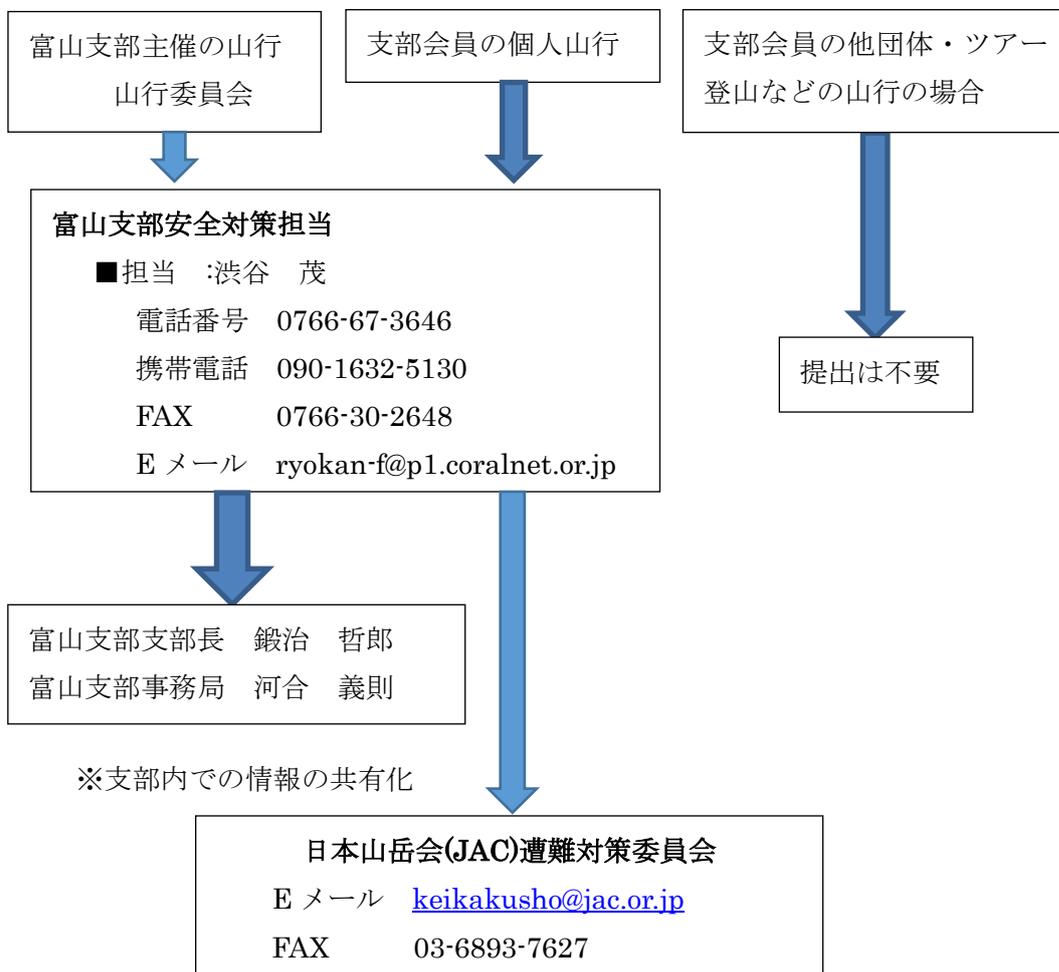
「登山計画書」の提出方法について（再掲）

(1) 「遭難対策規定の改定について（H30.2）」の経緯

富士山、幌尻岳で日本山岳会会員の悲しい死亡事故が続いたことから、JAC 遭難対策委員会では「遭難対策規定」「遭難対策運用要領」が改訂されました。それを受け、登山計画書の提出方法も整備され、会報「山」やホームページで周知されているとおります。H30（2018）年の富山支部の届出件数は13件でした。安全登山のため、山行される場合は必ず登山計画書を支部に提出していただくようお願いします。改めて「登山届」提出の流れについて掲載いたします。

(2) 富山支部の「登山届」について

- ・登山計画書の本部への提出の流れについては下記の通りとする。



※下山届についても報告すること

※日本山岳会富山支部のホームページで「登山計画書」（PDF・WORD版）をダウンロードできます。
また、別紙に登山計画書の様式を掲載しましたので活用してください。

（注）会誌108号で紹介しましたが、一部修正して掲載しました。

新入会員紹介

- ・石原ゆかり いしはらゆかり (56) 11月入会 会員番号16426 富山市大島
自己紹介：「立山・劔岳・薬師岳」の大パノラマを我が庭のように眺め自然に囲まれ育ち、気が付けば山歩きの魅力の虜となりライフスタイルの一部となりました。これからも永くそして会員の諸先輩の方々と一緒に山を楽しみたいと思います。

会員動向

- ・小西武司会員 平成 30 年秋の叙勲
長年にわたり郵政業務に尽力された功績により瑞宝単光章を受賞されました。
- ・飯田肇会員 平成 31 年 1 月 12 日 (土) に高岡市生涯学習センターで開催された 2018 年第 4 回日本海学講座において、「知られざる立山の雪の世界」一雪の壁から氷河まで一と題して講演されました。
- ・三好まき子さん (会員番号 9945) 1 月 28 日逝去、享年 61。入会は昭和 61 年、埼玉県富士見市在住だったが平成 24 年に富山支部へ所属変更。立山町に実家があり、田植や稲刈りには帰って手伝っていたと聞く。支部総会に出席したり年次晚餐会で同じテーブルに参加した年もあった。本部では図書委員長をつとめ、機関誌「山」にたびたび寄稿、図書交換会の責任者などで活躍された。一昨年、大手術を経験して山登りや図書委員会などから退かれたが、昨年 3 月の富山支部創立 70 周年記念式典に元気に顔を出された。心からご冥福をお祈りいたします。(山田信明 記)

山行計画等案内

○全国支部懇談会 5 月 25・26 日 (栃木支部)

○平成31年度 富山支部総会 期日：平成31年4月16日 (火) 17:30～

会場：富山電気ビル4F (3月下旬に、改めて案内申し上げます)

編集後記

五支部合同山行、年次晚餐会での支部活動紹介、山岳講演会など、平成最後の事業活動が無事に終わり、今号はそれらを中心とした報告で締めくくりました。県山岳連盟の新役員、富山支部への新入会員を迎え、新たな活動の展開が期待される所です。平成の世では、大地震、台風、集中豪雨など天災による大きな爪痕が残りました。しかも日本近海に地震魚と呼ばれる深海魚が出没して、富山湾でもリュウグウノツカイが打ち上げられました。深海で何が起きているのか？不安材料です。各地の山へ出かけられる幸せを感じつつ、情報不足・判断ミスなど人的災害による事故・遭難を起さぬように登山を楽しみたいものです。(正橋立子 記)

2月の根子岳と浅間山では小さな事故が続き、高齢者中心の支部活動の課題が浮き彫りになりました。安全登山のために今一度体力と装備を自己点検するとともに、計画書の作成と提出について確認ください。(北田幹夫 記)

公益社団法人日本山岳会 富山支部会報 第110号

発行者：鍛冶哲郎 編集者：北田幹夫・正橋立子

事務局 〒939-8095 富山市大泉中町 7-52-204 河合義則方

電話 076-492-3936 090-4326-6197 Eメール kawa-mori55@air.ocn.ne.jp